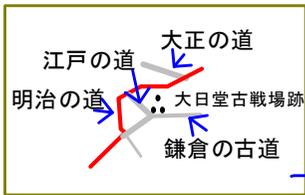


街道を歩く



見付天神 (矢奈比売神社)

祭神 矢奈比売命、菅原道真
本殿は慶安4年(1651)建立。裸祭り知られる。民話によると、正和年間(1312-17)、ここに怪物が棲み、人身御供を要求。一実坊という旅僧がこの話を聞き、堂に潜んでいると、「信濃の悉平太郎に知らせるな」という怪物の声を聞いたので信濃を探し回り、ついに上穂宿(駒ヶ根市)の光前寺の犬と分かり、その犬を連れてきて退治したという。その怪物はヒヒで、犬も傷でまもなく死んだという。喜んだ村人は裸で踊ったという伝え。



遠州鈴ヶ森処刑場跡
白波五人男の首領、日本左衛門が処刑された場所。



東海道遠江・駿河：08久津部一袋井一見付

袋井宿 掛川から2里16町

本陣3、脇本陣0、問屋1、旅籠50。町並み東西5町15間
鎌倉時代から宿機能はあったが東海道で宿になったのは宿駅制度制定15年後の元和2年(1616)であった。東の天橋から西の中川橋までが宿。西外れに高札場があった。江戸時代の宿絵図をみると、街道沿いに家が並び、水害から逃れるためか宿全体が土手で囲まれている昔こな辺りは丘に囲まれた窪地で、その中に大きな井泉あり田畑を潤していたことから袋井と地名になったという。江戸から27番目の宿。東海道中間の宿。



袋井本陣跡



どまん中茶屋



大日堂古戦場跡
本多平八郎物見の松平八郎が木原騨の武田軍の動静を偵察した場所。



見付、愛宕神社、一里塚



[弥次・喜多] 袋井宿にさしかかり旅人の茶店での飲食風景をみて。
"ここに来てゆきゝの腹やふくれけん
されば布袋のふくろ井の茶屋"



新屋秋葉燈籠

江戸時代秋葉山信仰が盛んになり各地に常夜灯が作られ現在、市内に11基の木造屋形常夜灯が残る。



こね 許禰神社 熊野権現

昔この地は大雨による水害に悩まされていた。ある時熊野権現の使いが現れ、神社を造るよう促し、木原権現が誕生した。家康は関ヶ原合戦前に戦勝を祈願。勝利後70石の所領をあたえたという。境内には家康の"思案の腰掛石"がある。

木原大念仏

元龜3年(1572)信玄は久野城を攻めた信玄はここに陣をはり、浜松を守る家康の偵察隊と衝突した。いわゆる"木原騨の戦い"の場所。6年後天正6年(1578)高天神城から、この地の徳川軍の偵察に来た武田の斥候、笹田源吾はこの地で討ち取られる。その後疫病や災害が発生したので、その供養のため木原大念仏が始まる。近くに笹田源吾の墓、古戦場の碑が建つがある。



笹田源吾の墓



木原騨古戦場跡碑



澤野医院記念館

享保12年(1727)の記録に残る医者。現在の居宅は安政元年(1854)、洋館は大正5年。病棟は昭和9年の建物が残り医療機器が展示されている。